

18議席に前進した力で、 公約実現、市政転換へ全力。



日本共産党 京都市会議員団

18議席へと前進した日本共産党議員団は、5月市会代表質問などで、さっそく市民のくらしと平和の願いを取り上げて奮闘。今後とも、戦争法案阻止、公約実現、市政転換へ全力をあげます。

国民健康保険料

払える額へさらに引き下げを

今年4月から国民健康保険料が1人当たり、年2532円引き下げられ、喜ばれていますが、所得300万円・4人世帯で年50万円を超える高い保険料です。「区役所に納付相談に行き減額を申請したが、聞いてくれない」などの声を紹介し、払える額まで引き下げること、国保証取り上げはやめることを求めました。

副市長は「滞納者に資格証明書を交付することや、差し押さえを実施することは、公平性の観点から当然必要」と、社会保障の原則をふみはずす答弁をしました。

毎日のくらしが大変なのに、国と一体となった市政の住民サービス切捨てがとまりません。躍進した党議員団に「くらし守れ」の切実な声が連日届いています。自治体本来の役割を果たす市政実現へ力を尽くします。

住民のくらしを守る
市政を

日本共産党
京都市会議員

山中渡



●市議8期・経済総務委員、市議団団長

URL <http://yamanaka-wataru.jp/>
shikai@yamanaka-wataru.jp

子ども医療費

中学校卒業まで通院も無料に

今年9月から子どもの医療費助成の対象が中学校卒業まで拡充されることは大きな前進ですが、依然として、3歳以上の通院は1人月3000円、3人兄弟だと9000円の自己負担が子育て世帯にのしかかっています。「府の制度に上乗せして通院無料を拡充していないのは京都市のみ。自己負担3000円をなくし、中学校卒業まで通院も無料に」と求めました。

市長は「多額の費用が必要であり、困難」と拒否しました。

学童保育

児童数増に伴う緊急対策を

京都市は学童クラブ事業を小学6年まで拡充しましたが、学童児童数の増加に施設整備が整わず、「入りたくても入れなかった」との実際の声を紹介。実態を調査し、入所できなかったケースがあれば緊急に対応するよう求めました。

マル老(老人医療費支給制度)

窓口負担を1割に戻し、74歳まで拡大を

今年4月から、65歳から69歳の方の医療費窓口支払いが、1割から倍の2割に引き上げられました。医療費増加、介護保険料値上げによる高齢者の悲鳴の声を紹介し、1割負担に戻すこと、対象要件を縮小せず、74歳まで拡大することを求めました。

副市長は、「本来3割となる自己負担を2割に軽減するものだ」と居直りました。